

第23回 アメリカザリガニ



今回のテーマは、河北潟の仲間たちの中でも最も身近な存在、アメリカザリガニです。特に男の子たちには、垂涎的、水辺のいきもの探しの一番のターゲットといってもいいでしょう。

堅くて赤い甲殻と大きなハサミを振りかざす、宇宙からの侵略者のようなこの生物、名前の通り外来生物です。アメリカ合衆国のミシシッピ川流域などが原産地です。同じ流域を生息地とするウシガエルを養殖するにあたり、餌として神奈川県の養殖場に持ち込まれたものが、逃げ出し定着したといわれています。

子どもたちには人気のアメリカザリガニですが、以前から農家にとっては、田んぼを荒らす悪者として嫌われていました。私がつもっている子ども向けの学習漫画「なぜなぜ理科学習漫画 7巻 魚・貝のふしぎ」（1970年）には、「アメリカザリガニ」という題で、「日本へきたときは、めずらしいのでかわいがられたけど、いまはいじめられているよ」とアメリカザリガニがつぶやき、子どもは「あっ、ザリガニのやつイネをあらしているぞ。」「つかまえてしまえ。」と叫んでいる一コマがあります。

最近では生物学者や自然の保護に熱心な人たちからは、雑食性で水草や小動物を食い荒らすことから、在来生物の絶滅危惧種を滅ぼしたり、生物多様性に影響を与える存在として問題視されています。環境省からは「要注意外来生物」、日本生態学会からは「日本の侵略的外来種ワースト100」に選定されています。

河北潟でも、一時期、大量に発生したとのことで、赤い絨毯を敷いたように干拓地の道路を大群が移動していたとの話も聞きました。しかし現在では、ウシガエルとともに随分と目立た

ない存在になってしまいました。ザリガニ減少の原因はよくわからないのですが、小さなため池などで、ブラックバスを退治したらアメリカザリガニが増えたという例があり、河北潟でもブラックバス等の他の捕食者の増加が、アメリカザリガニの減少の一要因となっていることが考えられます。

また最近、小さい個体が多いとよく言われます。私のところにも、ニホンザリガニではないかと持ち込まれたことが数回ありました。甲は柔らかくハサミも小さく、何より赤くありません。しかし実際は、アメリカザリガニの小さな個体です。かつて遺伝的な劣化が起こっているとの話を聞いたことがありますが、真偽については不明です。

美濃・宮下（2007）によると、千葉県の印旛沼流域では、ウシガエルがいるところでは、小型個体が多いことを指摘しています。何からの捕食者のインパクトがザリガニのサイズへ影響していることも考えられます。（文 高橋 久）